

## No.24 ジミー・ダーハム

Jimmie Durham

### 「ガラガラヘビ星と7つの方位」

北川フラムさんのコラム / 1996 (平成8) 年12月1日付 立川市市報記事より

ジミー・ダーハムはアメリカ先住民族、チェロキー・インディアン出身のアーティストだ。彼は工事中のフェアレ立川に来て、長いあいだ基地跡地を巡って歩いた。ベトナム戦争従軍の時に日本の基地に寄ったそうで、その記憶を検証しているかのようだった。

インディアンは若くして戦争に駆り立てられるという。そしてインディアンは、アメリカでは少数民族である。彼はこの立川の地にチェロキー・インディアンの記憶を残そうとした。

「ガラガラヘビ星と7つの方位」と題された、この静かな谷間は、チェロキーのもつ7つの方向、「東」「西」「南」「北」「上」「下」と「心の中へ」を示している。失われてゆくものをあらず記号は静かで深い。

作家のメッセージ / 日本住宅公団 (現:UR都市機構) 「ミニ通信」より

おそらく、ものに名前をつけるのは、ものを忘れ、ことをどんどん進めるためなのでしょう。しかし、それはものがその名前と一致しているということを意味しません。

四つの主要な点があります。(おそらくそれは単純に私たちの肉体的なつくりのためなのですが)、第一の点は、毎朝太陽を見る方角です。その方角を“東”と呼ぶことで、私たちは自分たちと太陽との関係を隠蔽し、その結果思考の非知性化に加担しています。

今、驚くべき困難な世紀の終わりにあって、宇宙はわかっておらず、人間の潜在能力はわかっていないことを私たちは簡単に理解できます。私たちはその答えを夢想するのではなく、提示するにふさわしい時を迎えています。

いずれにせよ、美術は教示でも、解決でもありません。私にとって美術とは、知的エネルギーを与える術を研究するものでなければなりません。

私の立川の作品は、“ガラガラヘビ星と7つの方位”と呼ばれます。

チェロキー(註釈:アメリカインディアンの一つ)の神話におけるガラガラヘビ星は、アステカの神話ではQuet Zal coat I と呼ばれ、ヨーロッパの神話ではヴィーナスと呼ばれています。

そして7つの方位を、私たちチェロキーは、東、西、北、南、上、下、そして内つまり自我と呼びますが、これは説明ではなく、ただ名前をつけているだけです。

説明のあるなしにかかわらず、人々が私の作品に向かい合った時に、不愉快でない混乱を体験されることを願っています。

今(KA)、私は北川フラムさんとアート・フロント・ギャラリーのすべての皆さんに“WADO, OSD  
A DV !” (チェロキーの言葉で“ありがとう”という意味) と言わねばなりません。  
彼らは私の本当の友人となりました。

東京、1994年8月